

## University Research Administrator (URA)の 育成・定着・充実化

### GROUP 1

日本医科大学 システム生理学

日本医科大学 血液内科学

日本獣医生命科学大学 獣医学科/野生動物学研究室

日本医科大学 乳腺科

日本獣医生命科学大学 動物生産化学教室

日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学臨床部門

○ 雁木 美衣

砂川 実香

田中 亜紀

八木 美緒

白石 純一

関 瀬利

- はじめに
- URA導入の経緯
- URAシステム整備についての現状
- URAの育成
- URAの問題点
- URAに期待すること
- おわりに

## はじめに

なぜUniversity Research Administrator (URA)について調べようと思ったのか

- 昨年のキャリアデザインプロジェクトで度々耳にする。
  - 「産学連携」
  - 「研究費獲得方法」

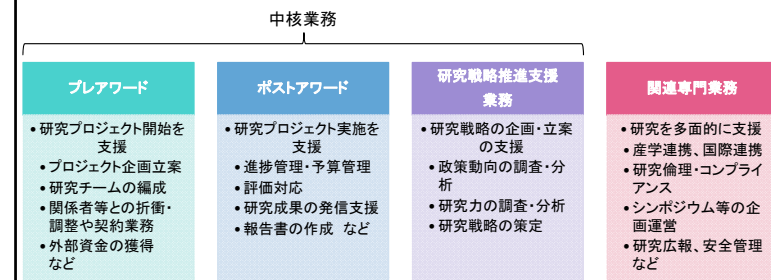
URAとはどういう存在だろう？

- 子育て・介護などで研究時間の確保が難しい研究者の救世主となるのだろうか？

## URA (University research Administrator) とは

大学などの研究組織において研究者および事務職員とともに、研究資源の導入促進、研究活動の企画・マネジメント、研究成果の活用促進を行って、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化を支える業務に従事する人材。

→大学教員でも事務職員でもない「第3の職種」



RA協議会 (<https://www.rman.jp/ura/>)

はじめに

○ URA導入の経緯

URAシステム整備についての現状

URAの育成

URAの問題点

URAに期待すること

おわりに

## URA導入の経緯

参考：  
第2回 日本版URAの歴史と質保証制度導入の背景 | 2021年1月 | 産学官連携  
ジャーナル (ist.go.jp)

背景

### 2004年度(平成16年)

- **国立大学の法人化** → 大学に求められる役割の肥大化、高等教育の国際的競争の激化、研究プロジェクトの大型化など、大学を取り巻く環境が大きく変化
- **厳しい政府財政状況**を踏まえ、国立大学に対する運営交付金、私立大学に対する経常費補助の**削減**



- 研究・教育・社会貢献のための資源の獲得は徐々に難化



研究者に大きな負担

2009年度(平成21年)

#### 【金沢大学】

- 文科省による教育研究高度化のための支援体制整備事業において、『**リサーチアドミニストレーション研究会**』を発足させる
  - 研究支援人材の充実を掲げ、研究支援業務に従事する人たちの情報交換・ネットワーク構築を目的

2011年度(平成23年)

- 文科省による『**リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備**』事業
  - 日本においてURAの普及定着に大きな契機となった
  - ◆ スキル標準の整備
  - ◆ 研修・教育プログラムの整備
  - ◆ 各大学(15の採択校)の特性を踏まえたURA組織をモデル校として構築するため人材配置事業

- 当初の15の採択校

- **平成23年度採択機関**  
東京大学、東京農工大学、金沢大学、名古屋大学、京都大学
- **平成24年度採択機関**
  - **世界的研究拠点整備**  
北海道大学、筑波大学、大阪大学、九州大学
  - **専門分野強化**  
新潟大学、山口大学、東京女子医科大学
  - **地域貢献・産学官連携強化**  
福井大学、信州大学、九州工業大学

2013年度(平成25年)

- 文科省による**研究大学強化促進事業**(事業期間10年間)
  - この事業では、URA組織の体制整備と環境整備が求められており、選定された22大学等の研究機関においてURAが大幅に増加

はじめに
URA導入の経緯
○ URAシステム整備についての現状
URAの育成
URAの問題点
URAに期待すること
おわりに

## 大学等の機関にどれくらいURAとして働く人がいるのか？

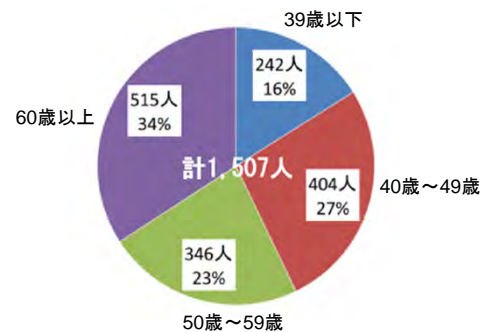
- 「URAとして配置」する者がいると回答した機関数  
⇒ 177機関（169）（）は前年度の数
- 「URAとして配置」する者の合計人数の推移



現在国内の大学等でURAとして活動する者は177機関の1507人に達している。

【令和元年度 大学等における産学連携事業実施状況について】文部科学省 (mext.go.jp)

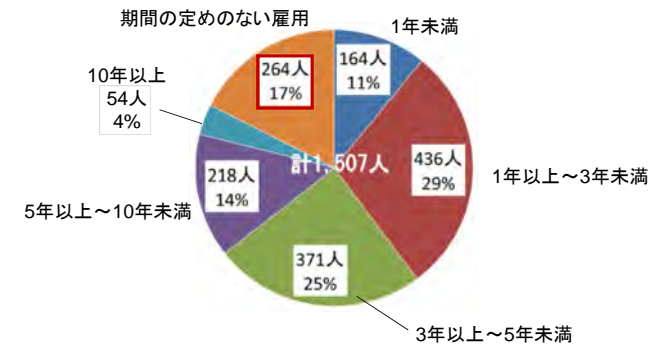
## URAの年齢層



40代、50代で全体の過半数を占める。  
URAとしての勤務に経験を要することが反映されていると考えられる。

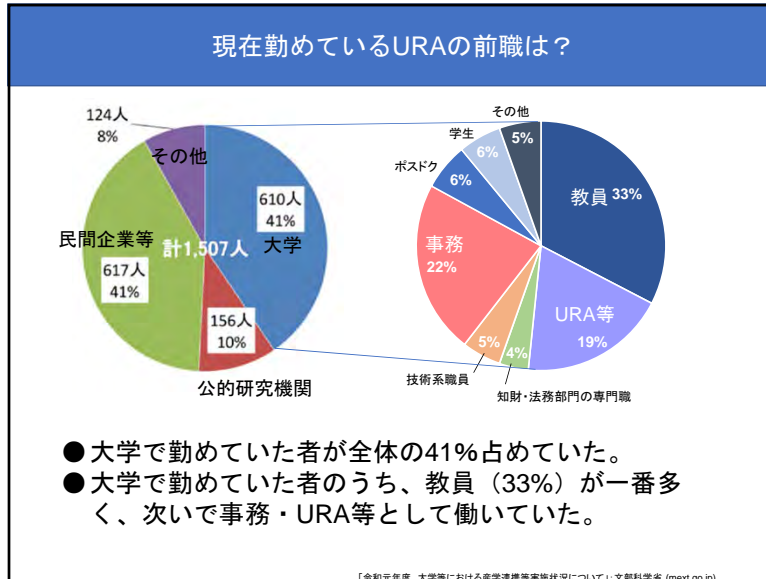
【令和元年度 大学等における産学連携事業実施状況について】文部科学省 (mext.go.jp)

## 「URAとして配置」する者の雇用期間



期間の定めのない雇用は17%で、  
ほとんどが雇用期間が定められている。

【令和元年度 大学等における産学連携事業実施状況について】文部科学省 (mext.go.jp)



- はじめに
- URA導入の経緯
- URAシステム整備についての現状
- URAの育成
- URAの問題点
- URAに期待すること
- おわりに

### URA育成 東京大学の例

#### URA認定制度と育成・キャリアパス

- 定義に沿った学内の教職員を対象に総長が認定
- 認定後は「東京大学URA」の称号
- 人材育成、雇用制度をセット
- 部局配置型

① URAとしての自身の基礎

① URAワークショップで意識付け

② URA研修で業務内容の知識を得る、幅を知る

③ URA連絡会議で互いを知り、自ら業務の幅を拡大

④ URA勉強会で自らURAを考え、意識を再定義

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/ura/>

### URA育成とキャリアパス 東京大学の例

#### ① URA候補者

#### ② URA研修

研究経験を活かして、研究分野の発展に貢献したい。

研究推進支援業務経験者

研究支援業務種の専門性を活かして、アドミニストレーションに貢献したい。

専門業務経験者

研究者時代に培った研究マインド経験も、新たなキャリアアップにつなげたい。

教育研究経験者

企画・運営業務経験を活かし、研究活動の推進に寄りたい。

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/ura/>

## URA育成とキャリアパス 東京大学の例

### ③URAに認定される メリット



<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/ura/>

### ④URA認定の 3つの区分



## URAの組織 北海道大学の例



### 海外のURA制度に近い大学

- ・ 総長や学長が指揮する組織にURAを配置
- ・ 大学運営・経営に影響力が強い職位として配置

### URAステーション

- ・ 戦略立案と実行を担う組織
- ・ URAが活動

<https://u4u.oiec.hokudai.ac.jp/organization/>

## URAの定着に向けた取り組み 北海道大学の例

### キャリアパス

- ・ テニュアトラック制度
- ・ 5年任期後、テニュアに移行
- ・ URA職の専門性を高度化
- ・ 大学経営マネジメント人材の育成



<https://u4u.oiec.hokudai.ac.jp/greeting/>

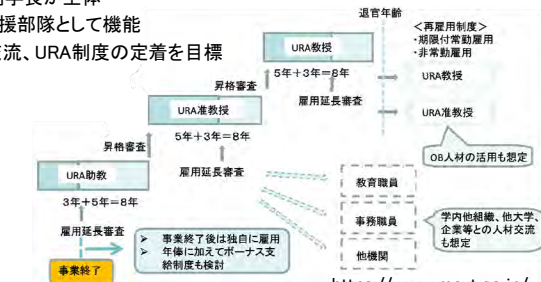
## URAの定着に向けた取り組み 九州工業大学の例

### キャリアパス

- ・ URAを教育職員として処遇
- ・ 昇格で長期雇用が可能となる人事制度

### 学内及び地域におけるURAの定着

- ・ 産学連携担当理事と副学長が主体
- ・ URAセンターが実行支援部隊として機能
- ・ 地域機関と積極的な交流、URA制度の定着を目標



<https://www.mext.go.jp/>

はじめに

URA導入の経緯

URAシステム整備についての現状

URAの育成

○ URAの問題点

URAに期待すること

おわりに

## URAの普及と定着における問題点

### 財源の確保

- 本格的な導入機関は国立中心。
- 2023年にはURA制度の普及を強力に後押ししてきた研究大学強化促進事業も終了してしまう
- 各施設の独自財源での確保が必要

### 人員の確保

- URAに期待する機能、具体的な業務、遂行に必要な能力を明確にする
- 採用後の処遇、キャリアパス、育成をどうするか

## URAの充実化をはかるには

2020年12月16日  
日本経済新聞より

### URAの周知が重要

財源: 独自財源

マッチングファンド

人材: 民間企業経験者も

資格: 認定制度を導入

雇用: 長期安定雇用を



はじめに

URA導入の経緯

URAシステム整備についての現状

URAの育成

URAの問題点

○ URAに期待すること

おわりに

## URAに期待すること —臨床の立場から—

### 臨床研究の支援

- 日々の診療に忙殺され、アイデアが浮かんだとしても、研究を実行に移すのは非常に難しい。
- 研究計画書の作成
- 研究資金の獲得
- 倫理審査等の手続き
- 学会発表、報告書の作成、などなど・・・ 様々な場面での支援が必要。

### 情報提供

- 他院で行われている臨床研究や臨床試験の動向に関する情報

### 広報活動

- 本学の研究成果を積極的に外部に配信

## URAに期待すること —基礎の立場から—

### 外部資金獲得支援

- 外部資金関連情報の収集、分析、情報提供
- 申請書作成支援

### 共同研究支援、異分野連携・融合研究の推進

- 研究室を超えた共同研究
- 基礎・臨床の共同研究
  - 基礎 → 臨床(トランスレーショナルリサーチ): 新薬の開発等
  - 臨床 → 基礎: 臨床経験 → メカニズムの解明
- 他大学との連携
  - 理学部・工学部をもつ大学との連携
- 国際連携

## おわりに

Q. 子育て・介護などで研究時間の確保が難しい研究者の救世主となるのだろうか？

A. 救世主となる可能性を秘めている。

- URAによる研究資金獲得支援 → 研究資金獲得 → マンパワーを増強 → 研究の実施
- URAによる共同研究の支援 → 研究の実施

専任URAの導入を希望します！